

異学年集団を中心とした民泊体験及び農業体験活動

山口県萩市立見島小学校

学校の概要

学校規模

学級数： 4学級

児童数： 26人

教職員数： 8人

活動の対象学年： 3～6年生・17人

体験活動の観点などからみた学校環境

萩港沖合約45Kmに位置する人口約1000人の離島にある。

海に囲まれた自然豊かな環境にあり、漁業が盛んである。また、農業も盛んで校区には田畑が広がり、きゅうりのビニルハウスなどがある。

地域の方の多くが見島人材バンクに登録され、学校行事や体験学習に協力的である。

連絡先

〒758-0701

山口県萩市見島657番地

電話：0838-23-2009

FAX：0838-23-2009

ホームページ

[http://edu.city.hagi.lg.jp/](http://edu.city.hagi.lg.jp/mishima-e/syougakkou.html)

[mishima-e/syougakkou.html](http://edu.city.hagi.lg.jp/mishima-e/syougakkou.html)

電子メール

mishima-e00@edu.city.hagi.lg.jp

体験活動の概要

活動のねらい

共同生活をとおして、協調性や連帯感など望ましい人間関係をつくる力を育成する。

自然とふれあう活動をとおして、自然に親しみ、自然を大切にすることを育てる。

他人の家に宿泊することをとおして、生活する上での基本的マナーや社会性を身につけさせる。

異学年集団での活動をとおして、仲間とのかかわりや協同の意義を実感させ、自己有用感を高める。

活動内容と教育課程上の位置付け

(総時間数：30単位時間・日数：4日間)

事前準備活動：2単位時間

(特別活動2単位時間)

民泊体験及び農業体験活動：20単位時間

(特別活動1単位時間、社会科3単位時間、総合的な学習の時間16単位時間)

<宿泊地域>

むつみコミュニティーセンター(1泊)

萩市むつみ地域の民家6戸(2泊)

(萩市ふるさとツーリズム推進協議会)

振り返り活動

(3・4年 国語6単位時間、社会2単位時間 / 5・6年 国語6単位時間、家庭科2単位時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

共同生活をとおして、協調性や連帯感など望ましい人間関係をつくる力を育成する。

自然とふれあう活動をとおして、自然に親しみ、自然を大切にすることを育てる。

他人の家に宿泊することをおして、生活する上での基本的マナーや社会性を身につけられるようにする。

異学年集団での活動をおして、仲間とのかかわりや協同の意義を実感させ、自己有用感を高める。

(2) 全体の指導計画

活動の名称 豊かな体験活動推進事業（子ども農山漁村交流プロジェクト）
 実施学年 第3学年 5名(男子4名女子1名) 第4学年 2名(男子1名女子1名)
 第5学年 3名(男子2名女子1名) 第6学年 7名(男子2名女子5名)
 計17名

活動内容及び期間・教育課程上の位置付け（全30単位時間）

活動内容	期間	教育課程上の位置付け
【事前準備活動】		
オリエンテーション（日程・活動内容の確認、めあての設定）	9月下旬	学級活動1単位時間
班会議、ホストファミリーへの手紙	10月上旬	学級活動1単位時間
【民泊体験及び農業体験活動】		
入村式	10月12日(水)	学級活動1単位時間
むつみ地域内見学（むつみの自然や産業）		社会3単位時間
農業体験（稲刈り、大根の収穫）	10月13日(木)	総合的な学習16単位時間
チャレンジ体験（牛の飼育、野菜の収穫、薪割り、押し花、花植え、酒造体験、食事作り、風呂焚き等）	10月14日(金)	
奉仕活動		
離村式	10月15日(土)	
【振り返り活動】		
お礼の手紙の作成	10月下旬	国語2単位時間
むつみの自然や産業をまとめよう	10月下旬	社会2単位時間(3・4年)
むつみの郷土料理をつくろう	10月下旬	家庭科2単位時間(5・6年)
体験活動発表会	10月下旬	国語4単位時間

2 活動の実際

(1) 事前指導

9月下旬より事前指導を実施した。主な指導内容は以下の2点である。

体験活動の計画立案

大まかな全体計画とむつみの写真を児童に示し、活動に対する見通しをもたせた。各民泊先で体験できる内容を大まかに説明した後、取り組んでみたい職業体験をもとに班編成や民泊先を決定した。

めあての設定と民泊先宛の手紙

事前指導の最終段階では、全体のめあてと個人のめあてを設定した。「自立」「協力」「感謝」を合い言葉とし、全体のめあては児童でしっかり話し合って決めた。そして、民泊先へ自己紹介や楽しみにしていることを内容とした手紙を書き、送付した。

(2) 民泊体験及び農業体験活動

[平成23年10月12日(水)・13日(木)・14日(金)・15日(土)]

12日～13日の午前までは3～6年生全員での活動と、異学年で編成した班に分かれての活動を行った。活動内容は、むつみの食材を使った夕食・朝食作り、稲刈り、大根の収穫等である。

13日の午後から民泊受入家庭6戸において、民泊体験活動を実施した。男女別3人の異学年班に分かれ、それぞれの民泊先で企画・準備して下さった自然体験や職業体験等を行った。自然体験及び職業体験活動の主な内容は、竹細工、里芋ほり、牛の飼育、酒のラベル作り等、むつみならではの多岐にわたるものとなった。様々な活動をとおして、合い言葉である自立、協力、感謝の精神の大切さについて学ぶことができた。

また、民泊先では、異学年班で一日の振り返りを行い、次の日のめあてを設定することで、目的意識をもって取り組むことができた。



【民泊先での様々な体験活動】

(3) 事後指導

体験活動終了後に、民泊受入家庭に対し手紙を書き、送付した。

10月29日(土)に行った見島小・中学校文化祭を発表の場に設定した。体験活動を振り返り、活動内容やそれぞれが感じたこと等をパワーポイントにまとめて発表した。また、福祉施設を訪問し、地域の方にも伝えることで学習のまとめとした。

3年生の社会科の「畑ではたらく人びとの仕事」では、むつみと見島の農業を比較して調べ学習を行うことで、本事業の学習の成果を他教科の学習に関連付けた。



【文化祭での発表】

3 体験活動の実施体制

(1) 学校や受入地域の支援体制

6月に萩市ふるさとツーリズム推進協議会、萩市教育委員会からの説明を受け、校内で実施計画案を作成した。8月5日に山口県教育委員会主催の「体験活動推進協議会」に参加し、本事業への理解を深めた。

8月下旬には全教職員で活動地域及び民泊先の下見を行った。10月上旬には、児童の手紙を持参して民泊先へ伺い、最終打ち合わせを行った。

萩市ふるさとツーリズム推進協議会と事前に打ち合わせを行い、支援体制を整えた。

(2) 配慮事項等

9月の学級懇談会で、保護者に本事業の目的、内容、支援体制、必要経費、準備物等について説明会を行った。それ以降は、学級通信等を用いて連絡及び共通理解を図った。

事前の手紙に保護者の連絡欄を設けて、民泊受入家庭に伝えておきたいことを記入してもらい、事前連絡を行った。

けがや病気等の万が一の事態を想定し、緊急連絡体制を作成し、共通理解を図った。

1日目のむつみコミュニティセンターにおける宿泊活動では、校長、学級担任、養護教諭が引率者として児童の健康及び安全管理に努めた。2日目以降の民泊体験活動では、萩市教育委員会担当者及び教頭、学級担任、養護教諭が巡回し、活動の様子と児童の健康状態の確認を行った。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

(1) 評価の工夫

体験活動後の児童の日記や活動の様子の写真を学校便りや学級通信、ホームページ、地域の掲示板に掲載し、児童の成長と学びの成果を地域や保護者に紹介した。

学級担任は、児童の行動観察を入念に行い、全教職員と共通理解を図った。また、本事業での取組を学級活動や道徳の授業づくりにつなげるなど、学級づくりに生かすようにした。

さらに、校内の異学年での取組を活性化させることで、よりよい人間関係が築けるようにした。

(2) 指導の改善

一過性の体験とならないよう、今後の学校生活や地域行事の中で児童が主体的に活動できる

場と機会を多く設定していきたい。本事業で実施した体験活動の高い成果を再度検証していこうと考えている。

5 活動の成果と課題

(1) 児童の変容

本事業をとおして、個々の児童の変容が見られた。例えば、一日目は節制がきかずに集団行動がとれなかった児童が、活動の後半には班の仲間と協力して体験活動に取り組む姿が見られるようになった。また、民泊先の方と積極的にコミュニケーションをとり、かかわろうとする姿が増えてきた。

本事業では、異学年の班編成をしたことに大きな成果が生まれたと考える。高学年児童は、民泊先で下級生の世話をする姿が多く見られるようになった。さらに、学校生活においても、本事業をきっかけに下級生をリードするようになってきた。下級生にとっても上級生とともに過ごすことで学ぶべき姿を見ることができ、相乗効果があったと考える。

また、児童の意識調査では、下のような結果であった。

	事前調査	事後調査
1 いやなことは、いやとはっきり言える	4.3	4.8
2 自分から進んで何でもやる	4.4	5.5
3 だれとでも仲よくできる	4.5	5.5
4 先を見通して、自分で計画が立てられる	3.9	4.8
5 人の話をきちんと聞くことができる	5.4	5.4
6 自分勝手な、わがママを言わない	5.0	5.5
7 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	5.5	5.6
8 早寝早起きである	4.4	4.8

(6点満点の平均値)

この調査結果から、本事業を個々の児童が有意義なものとして受け止め、自己肯定感を高めることができたと考えられる。

(2) 今後の改善の取組

本体験活動の教育効果をしっかりとらえ、今後の学校教育に生かしていく上で、以下の点を検証・改善していきたい。

異学年での取組を様々な活動で効果的に設定し、さらによりよい人間関係を築いていくこと。

ねらいや児童のめざす姿を明確にした年間指導計画を作成し、指導にあたる。さらに、宿泊学習や自然体験活動、総合的な学習の時間をさらに充実したものにするよう工夫すること。